保管用
よくお読みください
保証書別途

取扱説明書

リクライニング車いす

RR40/41N シリーズ

● 目 次 ●

安全に関するご注意	1
1.同梱部品の確認	9
2.安全ラベル	9
3.各部名称	10
4.お使いになる前に	11
5.各部の操作方法および使用方法	12
6.シートベルトの使用方法	14
7.リクライニングの方法	14
8.ブレーキの使用方法	15
9.肘掛の取扱い方法	16
10.脚部の使用方法	17
11.転倒防止バーの使用方法	19
12.背延長の使用方法	19
13.お手入れ方法	20
14.保管についてのお願い	20
15.点検・保守	21
16.車いすの主な乗り方	24
17.製品記録	25
18.仕様	26
19.保証	27

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご使用の際には必ず携帯していただき、必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

［表示マークの説明］

※正しい取扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

⚠ 警 告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注 意	取扱いを誤った場合、障害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
⊘ 禁 止	してはいけないことを示しています。
❗ 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

⚠ **警 告**　取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

⊘ **禁止**

●下記の場所には近づかないでください。

- エスカレーター
- ぬかるみのある場所
- 凹凸の激しい場所
- 深い砂利道
- 凍結した道路や雪道
- 防護柵のない側溝や路肩付近
- 大きな段差
- 大きな溝
- 急な坂道
- 交通量の多い場所
- 混雑している場所
- 幅の狭い場所

●下記の場所では、走行を避けてください。

- 夜間、雨や雪が降っているとき
- 風が強かったり霧が深い日
- その他危険が予想される場合

●勝手に改造・分解しないでください。

強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。

故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。

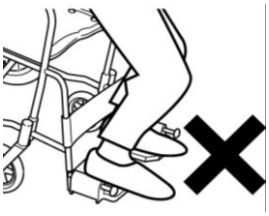
⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

●車いすに乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。

絶対にステップ板の上に乗って車いすに乗り込んだり､降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。

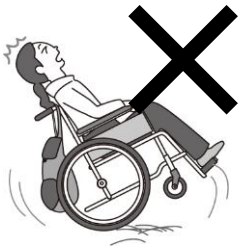


●車いすを火気に近付けないでください。

シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。

●ポケットには1kg 以上の重いものを入れないでください。

過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。



●座シート以外の部分に腰掛けないでください。

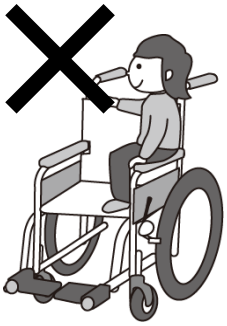
●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。

●複数の人数で乗らないでください。

この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損･事故の原因になります。

●急な坂道(勾配4度以上)では使用しないでください。

●押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。



●本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。

事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の販売店にご相談ください。

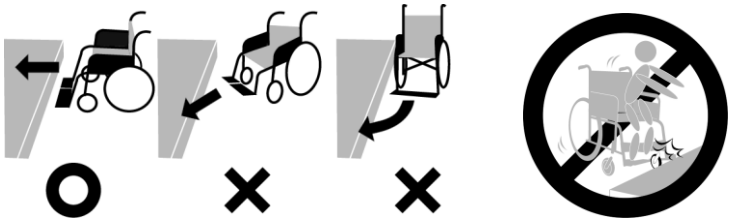
●大きな段差を無理に乗り越えようとしないでください。

●段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り越えてください。

決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受けます。

●発進するときや段差を乗り越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。

斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャスタが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。



⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。

車いすが不安定になり危険です。

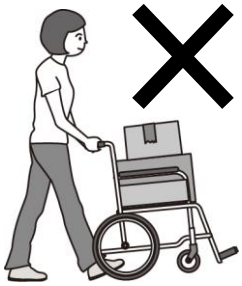
●車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。

車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、車いすごと転倒し大変危険です。

●車いす以外の目的に使用しないでください。

物品運搬･踏み台などに使用しないでください。

車いすの上では立ち上がらないでください。



必ず守る

●この車いすは、室内用に設計されています。室内でお使いいただく事を推奨いたしますが、やむを得ず道路通行の際は、必ず右側通行してください。
また、歩道を通行してください。

●車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。

※肘掛けを持たないでください。

※脚部をもたないでください。

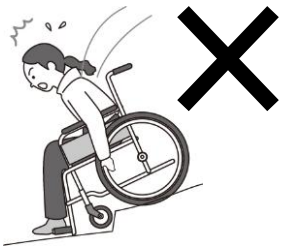
※背シートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。

※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、３人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。
利用者の身体の一部を持たないでください。

●車いすを持ち上げる際に、車いすにお座りの方の体の一部を持たないでください。

●身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。



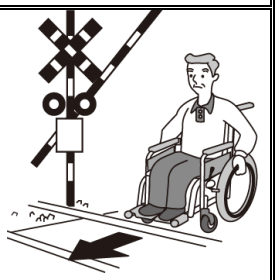
⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●踏み切りの横断やエレベータの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。



●坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらって行ってください。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

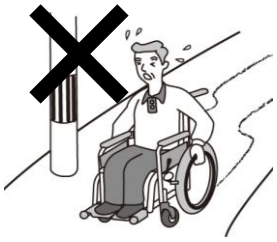
坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

［上り坂］

［下り坂］

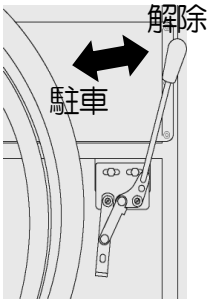
●傾斜地･坂道での走行は特にご注意ください。

- 傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。
- 車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。



●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

●駐車ブレーキをかけても、キャスタ（前輪）はロックされていませんので、動く場合があります。ご利用時には充分ご注意ください。



●走行中は、足を必ずステップ板の上に乗せてください。

足を地面に付けたままで走行したり、ステップ板から外して走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。

●車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。

●部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。

⚠ 警 告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●次のような場所では走行を避けてください。

- 交通量の多い道路
- 砂利道
- 凹凸のある道
- ぬかるみ
- 雪道
- 凍結路
- 防止柵のない側溝や路肩付近など
- 崖
- 川土手
- 海岸防波堤上
- その他危険な場所

●次のような場所では厳重な注意が必要です。

介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。

- 狭い道
- 踏み切り
- 横断歩道
- 駅のホーム
- エレベータ
- 車いす対応の動く歩道
- 車いす対応の福祉車両
- その他危険が予想される場所

●介助用として使用する場合、シートベルトを必ず装着してください。

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出されることがあり危険です。
また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

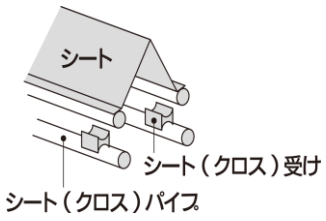
⚠ 注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●シート（クロス）パイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。

万が一、シート受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。



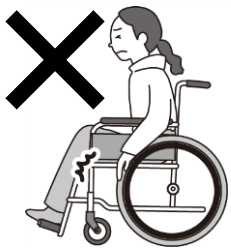
●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。

●ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けないでください。

●小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。

●タイヤをもって車輪を操作しないでください。

駐車ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。



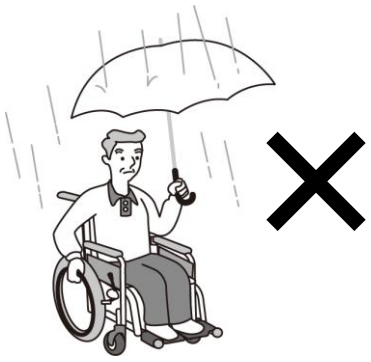
⚠ 注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

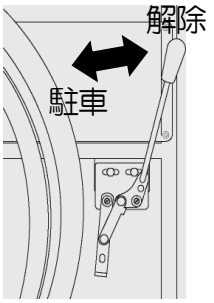
●走行する際には片手で操作しないでください。

傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。



●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。



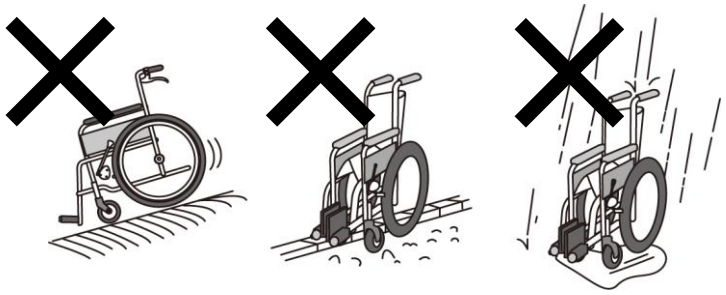
●傾斜地では、駐車しないでください。

傾斜地では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
- 路面に段差や凹凸のあるところ
- 海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
- ほこりの多い場所
- 非常口、消火器、消火栓の前
- 直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- 子供がいたずらをする恐れのある場所
- 人通りのあるところ
- 湿気の多いところ
- 雨、風のあたる場所
- 坂道
- 暑い日や寒い日の戸外

事故やサビ・破損の原因になります。



●後輪の空気圧が少なかったり故障した状態で使用しないでください。

ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるなど、危険です。

●後輪の空気圧を適正に保ってください。

適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。（目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。）

空気圧が高すぎるとチューブが破裂する危険があります。

⚠ 注 意

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●肘掛けに腕を載せたまま、肘掛を脱着しないでください。

●急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。

必ず守る

●ご使用前には各部を点検してください。

車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。

ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。

●安定した姿勢で座ってください。

座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。

また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。

●回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。

●車いすにバリなどがないかを確認してください。

衝突等により金属･樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。

●認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。

車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

●ご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。

●介助者は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。

利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。

●靴を履かずに足をステップ板に乗せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。

壁や柱で足をケガしたり、足がステップ板から落ちて骨折するなど、大変危険です。

●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。

●車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。

●最大体重を守ってご使用ください。

使用者最大体重は、積載物も含んだ重さです。

●皮膚の弱い方のご利用の際には、充分ご注意ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

※上記の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります

ご確認ください

飛行機にご搭乗される場合

お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用予定航空会社又は旅行代理店にご相談ください。

事前確認なしに空港へ行きますと、航空会社の確認業務に時間がかかり、ご希望の便に間に合わなかったり、せっかくの旅行を取りやめなくてはならなくなったりします。

特に**六輪車、リクライニング車などガススプリング（ガスダンパー）を使用している車いす**は飛行機への搭載可否の判断に日数を要する場合があります。また、電動車いすや電動ユニット装着車いす及び特殊車いすについてもご希望の便によっては貨物室のスペース確保が出来ない場合があります。はやめの　手続きでスムーズなご旅行をお楽しみください。

[製品の特徴・使用目的]

この商品は、リクライニング車いすです。

- ●背もたれが倒れ、リラックスできる車いすです。
- ●体型・症状に合わせた車いすを選択してください。
- ●この商品は、一人乗り用です。

1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

・取扱説明書	1 式
・保証書はがき	1 枚
・13mm スパナ	1 個
・4mm 六角レンチ	1 個
・5mm 六角レンチ	1 個
・6mm 六角レンチ	1 個

2.安全ラベル

- 取扱い上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- 安全ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

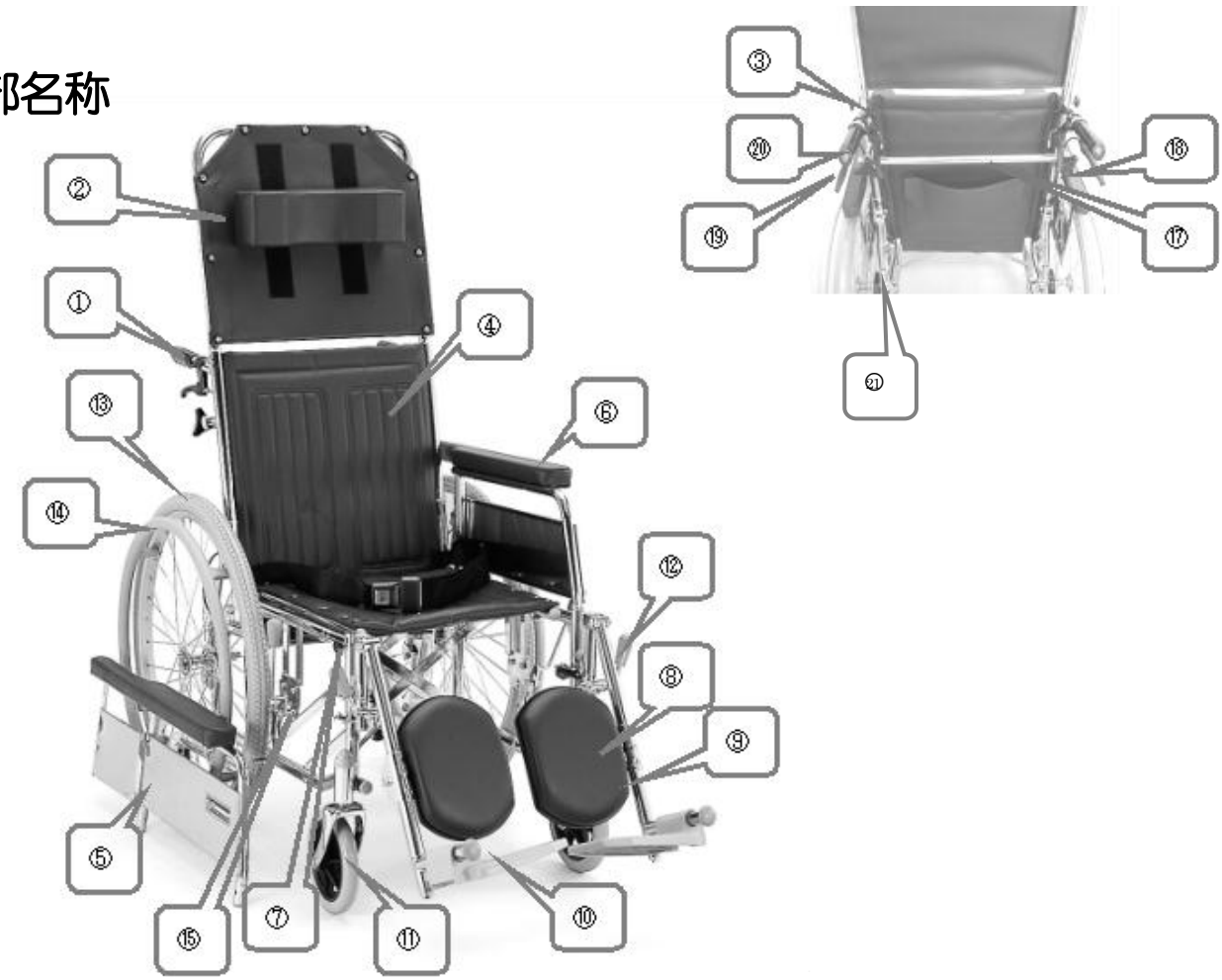
⚠ 警 告 転倒してケガをするおそれがあります

●取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
●乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
●地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
●段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
●最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
●アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●駆動輪やキャスタが外れないことを確認してください。
●座面以外に腰掛けないでください。

⚠ 注 意 ケガをするおそれがあります

●可動部分を持って持ち上げないでください。
●認知症（痴呆症）の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
●座面が確実に固定されていることを確認してください。
●手や衣服をはさまないようにご注意ください。

3.各部名称



①押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②背延長（枕付）	頭部がよりかかる場所です。
③背延長固定用ノブネジ	背延長を固定します。
④背もたれ（バックサポート）	背部がよりかかる場所です。
⑤肘掛け（アームサポート）	着脱式の肘置きです。
⑥肘当て	肘を置く部分です。
⑦肘掛け脱着用ノブネジ	肘掛けを固定します。
⑧ふくらはぎパッド	ふくらはぎを載せます。
⑨脚部（フットレッグサポート）	足を支持する装置です。
⑩ステップ板（フットサポート）	足を置く場所です。
⑪キャスタ（前輪）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑫エレベーティングレバー	脚部を上下するときに使います。
⑬後輪	主輪です。
⑭ハンドリム	手をかけて後輪を廻します。（自走式のみ）
⑮駐車ブレーキ	駐車時に使用します。
⑯メカニカルロック	背もたれを倒す装置です。
⑰ちぢみ止め棒	背にもたれた際、フレームが内側へたわむのを止めます。
⑱ちぢみ止め用ノブネジ	ちぢみ止めを固定するノブネジです。
⑲リクライニングレバー	握ると背もたれを倒したり、起こしたりできます。
⑳介助ブレーキレバー	介助者が使用する制動ブレーキです。（バンド式） （RR40NB・41NB・40DNB・41DNB のみ）
㉑ティッピングレバー	段差を乗り越えるときなど、介助者がキャスタを浮かすときに使います。

4.お使いになる前に　車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

長期間使用を続けると、劣化が生じます。

★装着品の確認

- 背シート、座シートは、しっかりと固定されていますか？
- ちぢみ止めは、しっかりと固定されていますか？
- 肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
- クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
- 脚部は、しっかりと固定されていますか？
- ふくらはぎパットは、しっかりと固定されていますか？
- ステップ板は、しっかりと取付けられていますか？

★後輪の確認

- タイヤに空気が充分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
- バルブが緩んでいませんか？
- タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

★ブレーキの確認

- 駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？

★肘掛け

- スムーズに着脱できますか？
- しっかりと固定できますか？
- 傷や亀裂等はありませんか？

★脚部

- スムーズにエレベーティング（上下）できますか？
- しっかりと固定できますか？
- ステップ板がパタパタしていませんか？
- 傷や亀裂等はありませんか？

★全体的に

- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- 背もたれがしっかりと固定されていますか？
- ワイヤーが部品等にひっかかっていませんか？
- ワイヤーが切れていませんか？
- メカニカルロックは正常に作動しますか？

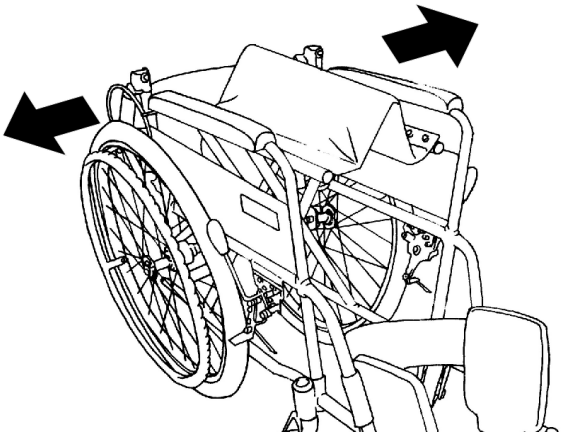
★介助者へ

- 長期間の使用や使用頻度によっては、ガススプリングやキャスタ車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- 次のような場所では必ず介助する人が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
  - 急な坂道
  - 凹凸や段差のある場所
  - 踏み切りの横断、エレベータの乗り降りなどの溝のある場所
  - その他危険が考えられる場所
- 車いすに乗って介助しないでください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- 利用者の身体の一部及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 重い荷物を車いすに載せたり、押手に提げたりしないでください。

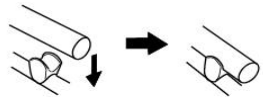
5. 各部の操作方法および使用方法

＜車いすの拡げ方＞

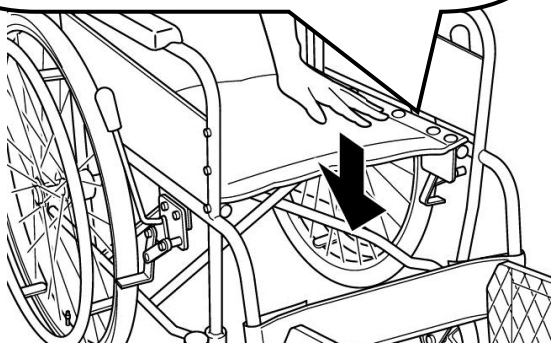
①左右に拡げます。



車いすの前方に立ち、左右の肘掛けを持って両側に軽く広げます。



前方からシートパイプをしっかり押さえ、シートパイプ受けにシートパイプがしっかり入るようにします。



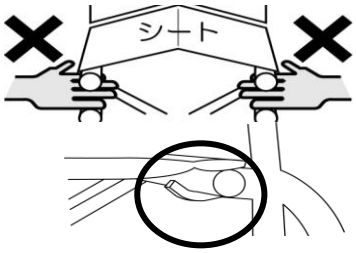
座面端のパイプ部分を手で押し下げます。

⚠ 注 意

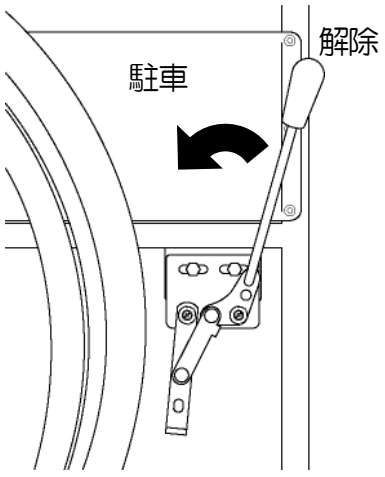
●座パイプの横や下に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

●シートパイプをシート受けに確実に入れてください。
フレームが変形して、事故の原因となります。

●背延長を外したまま使用しない。
ちぢみ止めを外した状態で使用しないこと。



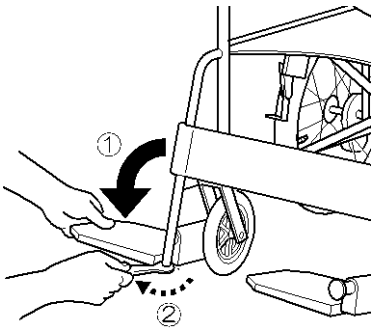
②ブレーキをかけます。

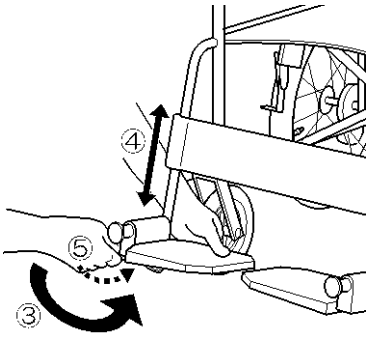


車いす乗降時には、必ず駐車ブレーキをかけて、車いすが固定されていることを確認してください。
ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方にすると解除されます。

※空気入タイヤをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

③ステップ板を取り付け、調整します。

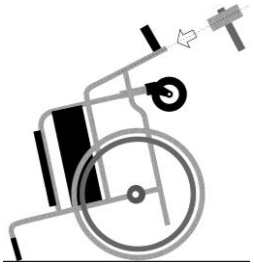




①ステップ板を外側に倒します。
②付属品のスパナを使ってステップポスト先端ボルトを少し緩めます。
反時計回り(②矢印方向)で緩みます。

③内側へ回転させます。
④ステップ板の高さを調節します。
⑤しっかりと締め付けます。
（7～8N·m）

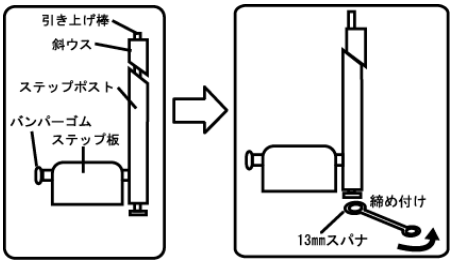
ステップ板が固くて動かない場合は、下図のように車いすを倒し、ポストに垂直に木槌等で先端の六角ボルト頭を叩いてください。
（パイプ内部のポストのかみ込みを解除します。）



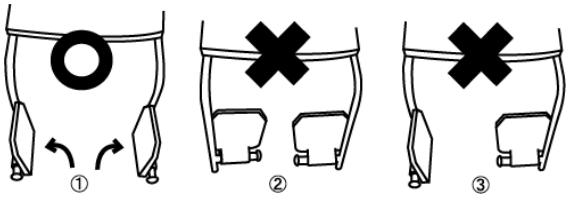
⚠ 警 告

●ステップポストの高さは地面より 5cm 以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板があたり、転倒する恐れがあります。

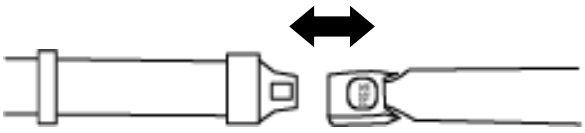
●ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。締めることにより斜ウスがずれてステップセットが固定されます。締付が弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。



●下図①のようにステップセットを固定してください。
●車いすを折りたたむ時は下図①のようにステップ板を跳ね上げてください。下図②,③のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。前輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります。



6.シートベルトの使用方法

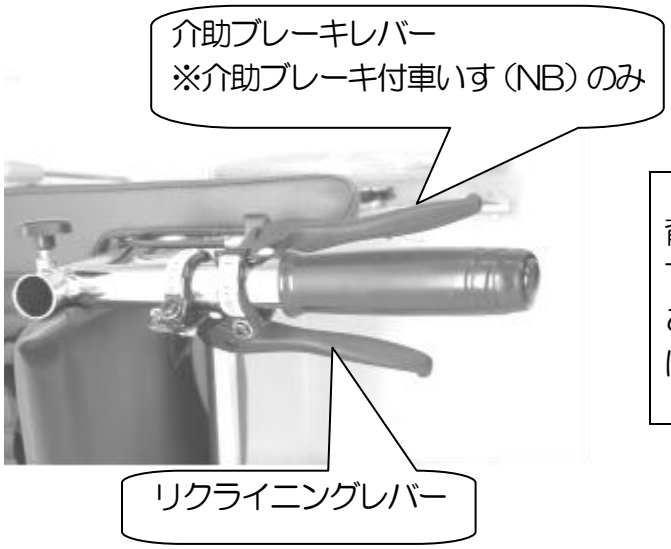


車いすに深く腰掛けワンタッチ金具がカチッと音がするまで差し込んでください。
外す時は赤いボタンを押しながら引き抜きます。

⚠ 注 意

●シートから落ちるおそれがあるので必ずシートベルトを使用してください。
転落事故の原因となります。

7.リクライニングの方法



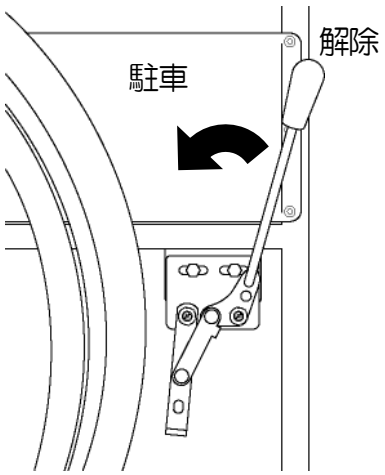
背もたれを倒す場合は、リクライニングレバーを握って、下方向に押すようにして力を加えます。背もたれを起こす場合は、レバーを握って上方向に引き上げるようにして力を加えます。

⚠ 注 意

●リクライニングレバーを握ると利用者の体重により背もたれが後ろに傾きます。
●不意にリクライニングレバーを握らないでください。背もたれが急に傾きます。
●手押しハンドルグリップをしっかり握ってリクライニングしてください。
●リクライニング時は、乗員の体重を支えながら行ってください。
●リクライニング（背もたれを倒した）状態で走行しないでください。転倒の恐れがあります。
●リクライニング機構（メカニカルロック）部に手や足を入れないでください。
●リクライニング時は、一声かけてから行いましょう。
●リクライニング時は後方へ転倒しやすくなり、非常に不安定となります。必ず介助者が付き添ってください。また転倒防止バーを装備しておりますが走行の際には充分に注意してください。
●リクライニングする時は必ず両方のレバーを握り、左右に均等に力を加えて下さい。バランスを崩して転倒したり、左右のフレームが歪んだりする恐れがあります。

8.ブレーキの使用方法

＜駐車ブレーキ＞



車いす乗降時には、必ず駐車ブレーキをかけて、車いすが固定されていることを確認してください。
ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方にすると解除されます。

※空気入タイヤをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

＜介助ブレーキ＞

走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。
ブレーキレバーは介助者の方が必ず両側同時にかけてください。ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。

⚠ 警 告

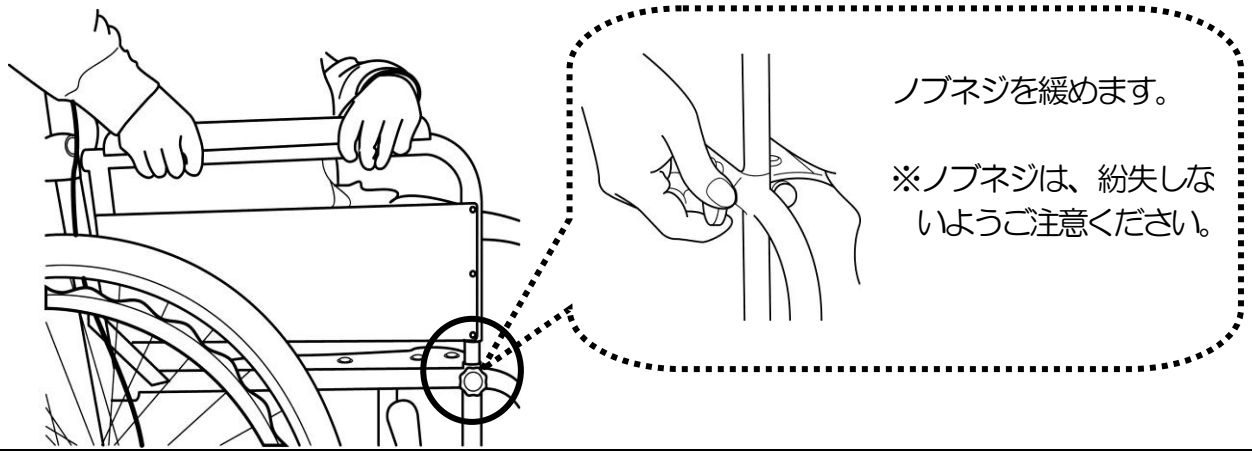
※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

●ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店にご相談ください。
●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形･破損する恐れがあります。

●坂道や傾斜地では駐車しないでください。坂道や傾斜地では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。（滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

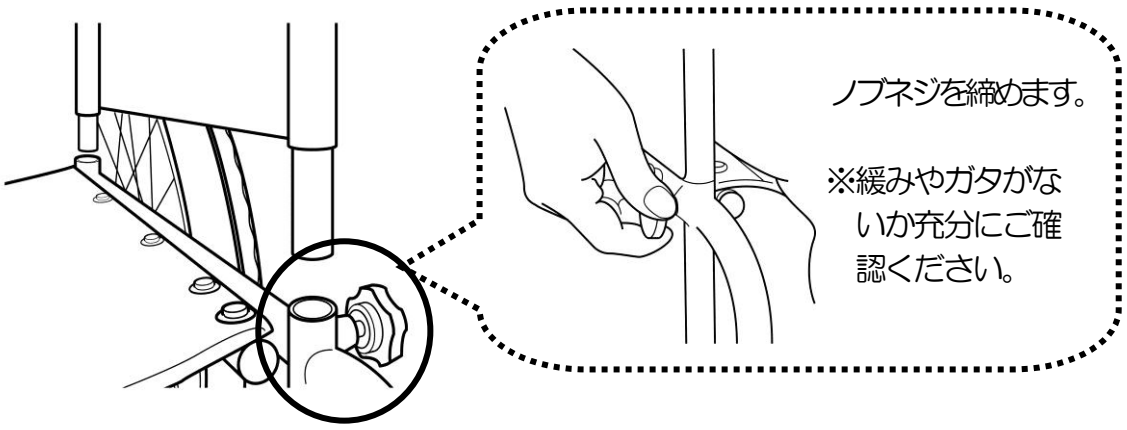
9.肘掛け（アームサポート）の取扱い方法

取り外すとき



ノブネジを緩め、肘掛け両端を両手で持ち、上に引き抜きます。
※無理やり引き抜かないでください。パイプが変形し、取付けできなくなります。

取り付けるとき

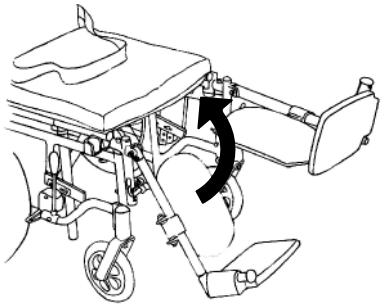


⚠ 注 意

●肘掛けに腕を乗せたまま、肘掛けを外さないでください。
●肘掛けをしっかりと固定した状態で使用してください。

10.脚部（フットレッグサポート）の使用方法

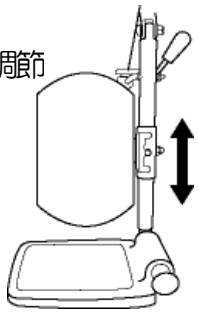
＜エレベーティング（角度を調整）する場合＞



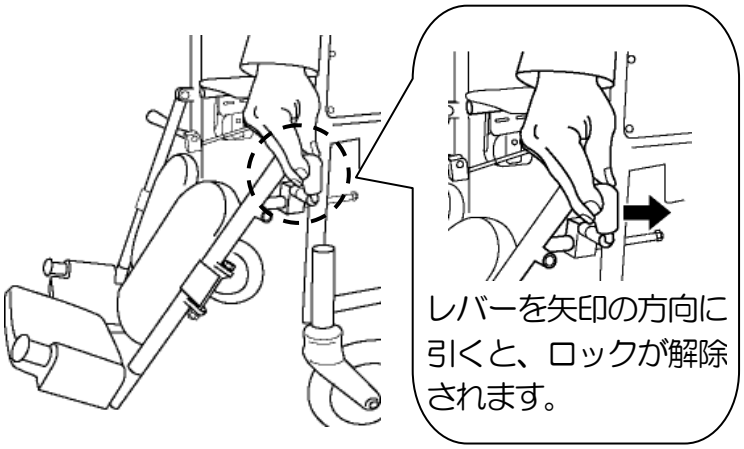
脚部を矢印の方向に持ち上げます。

ふくらはぎパッドの高さが３段階で調節できます。

※ポッチが確実に凹部に収まっていることを確認してください。

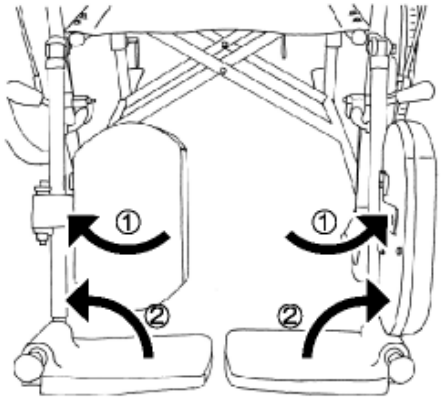


＜下ろすとき＞



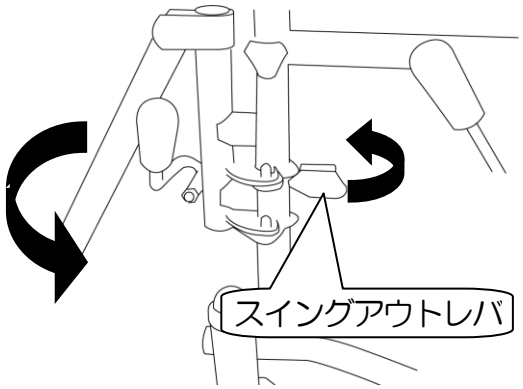
片方の手で脚部を支えながら、もう一方の手でロック解除レバーを背もたれ側に倒します。

＜折りたたむとき＞



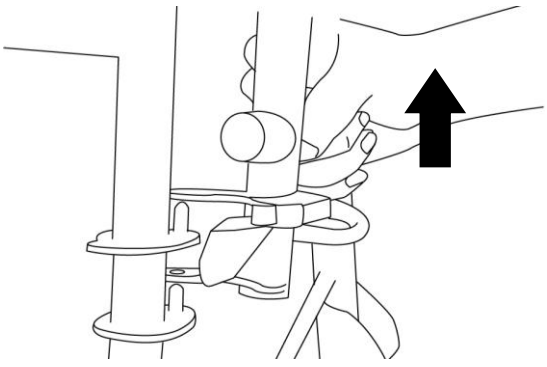
ふくらはぎパッドを左右に、次にステップ板を上に跳ね上げます。

＜スイングインするとき＞



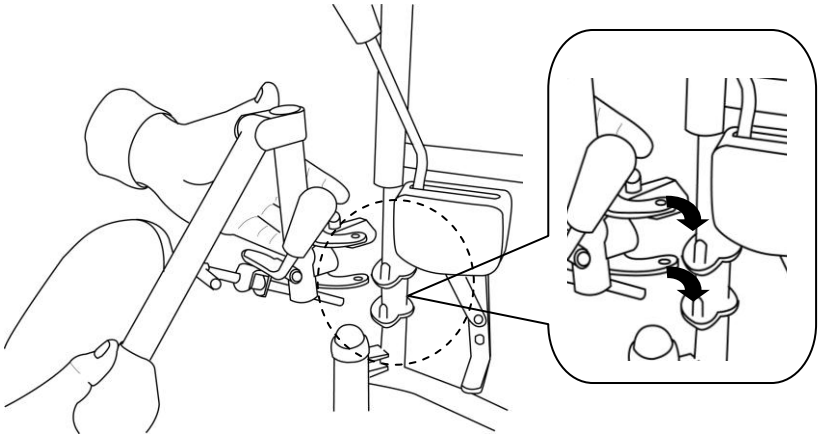
スイングアウトレバーを押しながら脚部を外側に廻します。

＜戻すとき＞

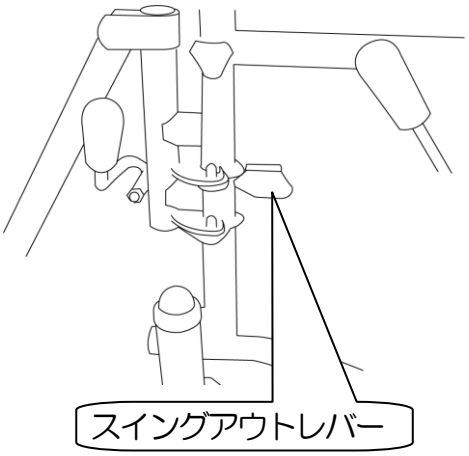


外側に廻した状態で脚部を上に引き抜くことができます。

＜取り付けるとき＞



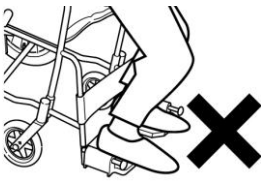
外側にふった状態で図のように脚部先端をはめ込みます。脚部を内側へ 90 度廻します。



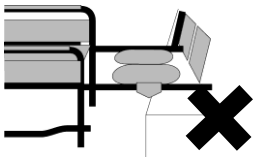
スイングアウトレバーがしっかりはまっていることを確認してください。

⚠ 警 告

●階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、絶対に肘掛けや脚部パイプを持たないでください。万一、はずれたり破損した場合、大変危険です。
基本的には 3～4 人で支えてください。
※一段ごとにタイミングをとってください。

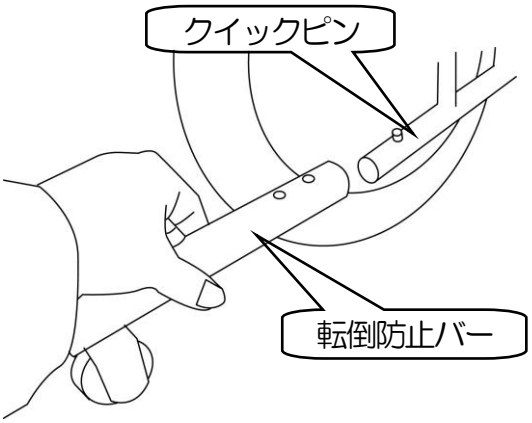


●車いすに乗り降りの際は、必ずステップ板の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



●エレベーティング式の脚部をベッド等に乗せての移乗はしないでください。
脚部が破損する恐れがあります。また、車いすごと転倒し、危険です。

11.転倒防止バーの使用方法

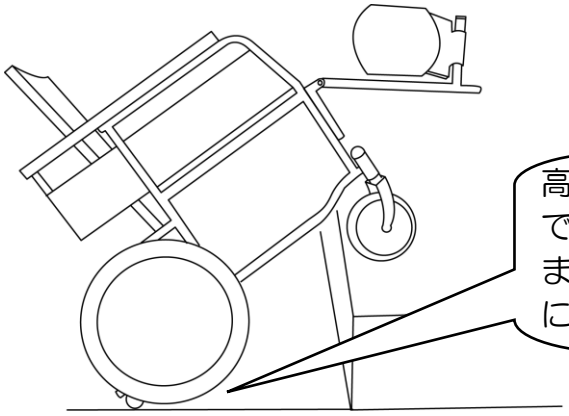


転倒防止バーの２つの穴により長さ調整ができます。ご使用の際には必ず転倒防止バーがしっかりと固定されていることを確認してください。

<取り付け方>
クイックピンを押しながら、転倒防止バーをティッピングレバーに差込ます。

<外すとき>
クイックピンを押しながら、転倒防止バーを引っ張ってください。

⚠注 意

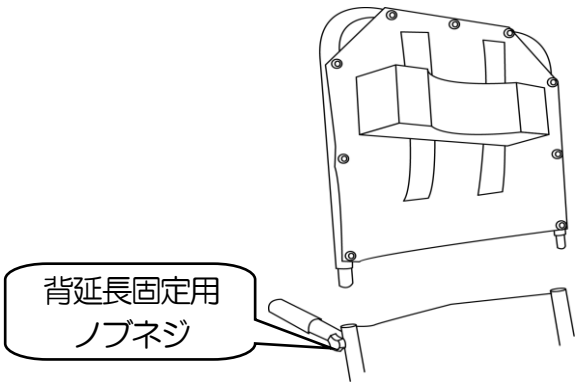


段差を乗り越える際には、転倒防止バーを外してご使用ください。

高い段差を乗り越えようとすると、転倒防止バーで車いすを支える形となって駆動輪が浮いてしまうことがあります。駆動輪が浮くと押手と車体に負荷がかかり破損の原因になります。

12.背延長の使用方法

背延長を背パイプ上部に差し込み、背延長固定用ノブネジをしっかりと締めます。枕の高さを調整してください。



⚠注 意

●ご使用前には、必ず背延長固定用ノブネジがしっかりと締まっていることを確認してください。

13.お手入れの方法

★金属部分（フレーム）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。
面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。取り除かないと、面ファスナーの接着力が弱くなり、事故の原因となります。

＜汚れがひどいとき＞

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- ●クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。
  （クッション生地のほつれ、けばだちの原因となります。）

⚠ 注 意

- ●熱湯やオゾンで洗浄しないでください。故障・変質・変色の原因となります。
- ●絶対に背延長を取り外して使用しないでください。転倒の原因となります。
- ●中性洗剤以外を使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。
- ●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。
- ●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。傷みの原因となります。

14.保管についてのお願い　車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

⚠ 注 意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
- 人通りのあるところ
- 坂道
- 路面に段差や凸凹のあるところ
- 湿気の多いところ
- 暑い日や寒い日の戸外
- 海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- 雨、風のあたる場所
- ほこりの多い場所
- 非常口、消火器、消火栓の前
- 直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- 子供がいたずらをする恐れのある場所

15.点検・保守

１ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は充分入っていますか？

空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていきます。１ヶ月に１回は空気を入れてください。
適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。高すぎると破裂の原因となります。

［目安］タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。

【適正空気圧(参考)】

18~24in 一般：400kPa（減圧弁圧）

22in 軽量：700kPa（減圧弁圧）

16in 以下一般：300kPa（減圧弁圧）

［注意］弊社の車いすに使用しているバルブは「英式バルブ」ですので、空気圧は正確には測定できません。英式バルブは空気が一方的に入るだけで、漏出させることができない構造になっているため、ポンプに内装型の圧力ゲージでも、 単体の圧力ゲージでも英式バルブの正確な空気圧測定はできません。

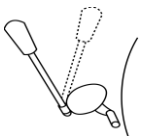
タイヤの溝は充分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。

★ブレーキはしっかり効きますか？



タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★フットプレートはしっかり固定されていますか？

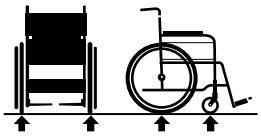
付属品のスパナを使って、ステップパイプ先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★四点接地していますか？



前輪二輪と中央輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。
直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。
原因となっている箇所の修理・交換を行ってください。

★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。
締めてもすぐに緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★きちんと折りたためますか？

折りたたみに異常がある場合、クロスの金具のネジの緩みや摺動部分の油切れが考えられます。ネジの締め付け、注油を行ってください。

★ワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤー、リクライニングワイヤーは切れていませんか？安全のために、１年に１度定期的に交換してください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

洗浄後は、充分に乾燥させてください。カビやサビの原因になります。

⚠ 注 意

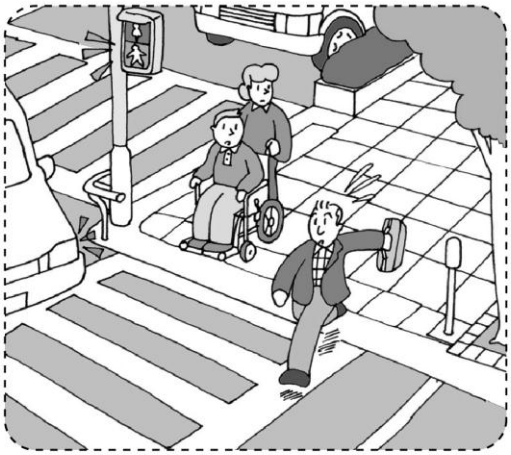
●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して販売店へご相談ください。

16.車いすの主な乗り方

⚠ 警 告

●タイヤの空気が充分入っているか確認しましょう。
●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や充分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、
走行を心掛けましょう。

⚠ 注 意

●車いすは乗り物ですから、定期点検が必要です。
長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★移乗　車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。

ゆっくりと腰を下ろしてもらう。
※「いち、にの、さん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

※転倒しないように、充分な配慮が必要です。

★外出（坂道）　車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“シートベルト着用”が基本です。

＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します

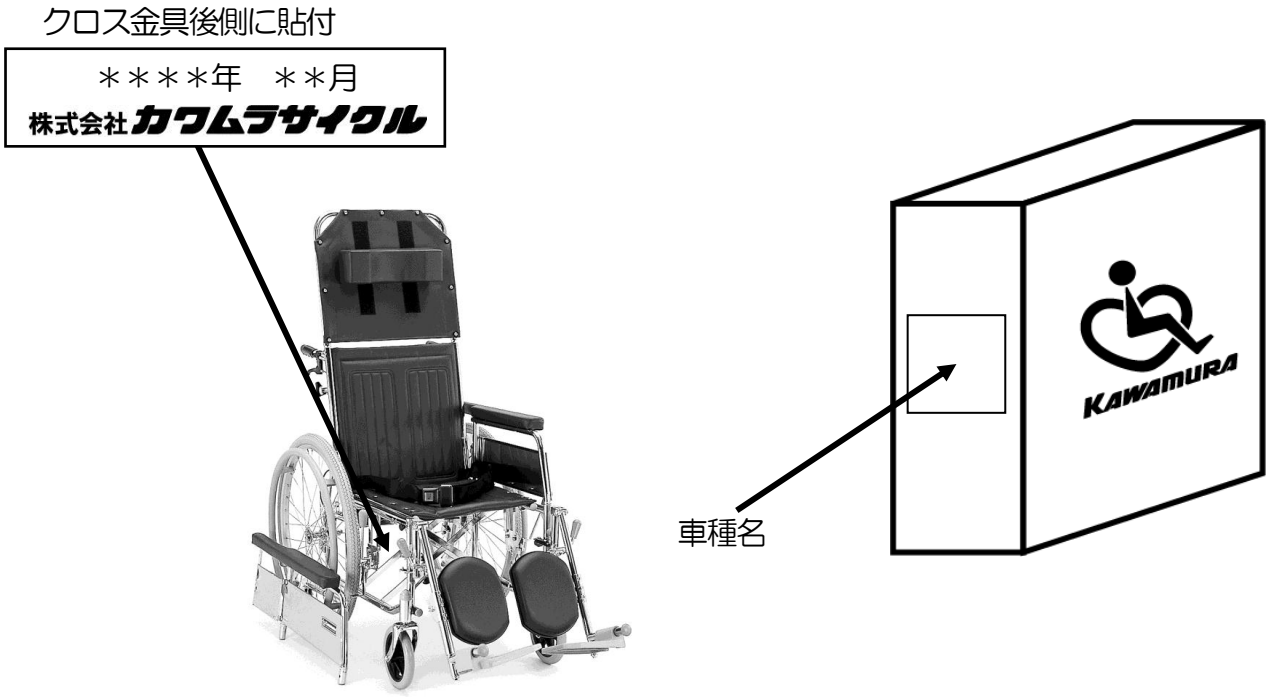
＜下り坂＞
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
シートベルトを必ずご利用ください。

17.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車　　種	
製 造 月	年　　月

＜シール貼付位置＞



18.仕　様

〈各部寸法〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・記載の寸法や状態は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

寸法表

品名・名称			RR40 シリーズ	RR41 シリーズ
座　幅		(mm)	400	
前座高		(mm)	465	
後座高		(mm)	450	
レッグ長さ		(mm)	430～	
シート奥行		(mm)	400	
背もたれ高		(mm)	820	
肘掛け高		(mm)	230	
全高		(mm)	1280	
折りたたみ		(mm)	875	
全幅	N/DN	(mm)	660	600
	NB/DNB	(mm)	670	610
折りたたみ	N/DN	(mm)	360	330
	NB/DNB	(mm)	370	340
全長		(mm)	1260(最長 1800)	1160(最長 1800)
折りたたみ		(mm)	1260	1160
重量	N	(kg)	27.0	24.9
	NB	(kg)	28.0	25.7
	DN	(kg)	27.0	24.5
	DNB	(kg)	28.0	25.5
使用者最大体重		(kg)	100	

〈各部仕様〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

標準仕様・規格

		RR40N(DN)	RR40NB(DNB)	RR41N(DN)	RR41NB(DNB)
フレーム		リクライニング式フレーム　平面式クロス			
折りたたみ方式		左右折りたたみ式			
後輪		24in　エアー ノーマル式	24in　エアー バンド式	16in　エアー ノーマル式	16in　エアー バンド式
	タイヤ	24×1 $^{3}/_{8}$ エアータイヤ		16×1.75 エアータイヤ	
	チューブ	24×1 $^{3}/_{8}$ エアータイヤ 英式バルブ		16×1.75 エアータイヤ 英式バルブ	
	ハンドリム	24in・波型・黒色		―	
前輪		7in　ニューソフト　スチール製ヨーク			
	キャスタ車輪	7in　ニューソフトキャスタ車輪			
	ヨーク	7in　パッキン式樹脂ヨーク			
背シート		調整なしシート（濃紺レザー）			
座シート		調整なしシート（濃紺レザー）			
シートベルト		ワンタッチ金具式　黒色			
肘掛け	N/ NB	標準型　着脱式			
	DN/ DNB	デスク型　着脱式			
脚部		エレベーティング式			
	ステップセット	C-4 標準式　φ19.0 用　（グレー）			
	ステップ板	c　（グレー）			
	フットレッグサポート	ふくらはぎパッド　（濃紺レザー）			
駐車ブレーキ		C.カバー無しタッグルブレーキ			
	ニギリ	グレー			
制動ブレーキ		―	バンド式	―	バンド式
ハンドグリップ		1.反射板付　黒色			
リクライニング機構		メカニカルロック			
付属品		転倒防止バーキャスタ付			
SG マーク		なし			
JIS マーク		なし			

＊この車いすの後輪のハブ軸は $^{1}/_{2}$ -20UNF のねじを使用しております。また、シート・バックサポート部、フットサポート部、介助ブレーキのハンドカバー部（介助ブレーキ装着車）には十字穴付きタッピンねじを使用しております。

19.保証

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ、商品購入後１ヶ月以内に当社へご返送ください。
保証期間はお買い上げ日より１年間です。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（ａ）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびパンク、シート、ステップ板の破損等
（ｂ）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（ｃ）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（ｄ）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（ｅ）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（ｆ）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（ｇ）製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（ｈ）取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（ｉ）取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障
（ｊ）ご購入後１ヶ月以内に登録されていない場合
（ｋ）日本国外でご使用の場合

★消耗部品

- 前輪(車輪のみ)
- 後輪(車輪のみ)
- 背シート
- バンド式介助ブレーキ本体
- ベアリング
- 肘当てパッド
- 座シート
- ワイヤー
- タイヤ
- ふくらはぎパッド
- 足ベルト
- メカニカルロック
- チューブ
- ステップセット
- 枕
- 虫ゴム
- 板バネ

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、５年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

※一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

メ モ

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで

各自治体の取り決めにしたがってください。

株式会社カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■仙台サービスセンター	〒982-0023	宮城県仙台市太白区鹿野 3-1-1	TEL022-746-9540
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町１-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒553-0004	大阪市福島区玉川 1-3-18 マックスビル ５階	TEL06-6479-2055
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原１-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2011.09 版